



第五次総合計画（前期基本計画）

が始まります

問 政策課 内線 205

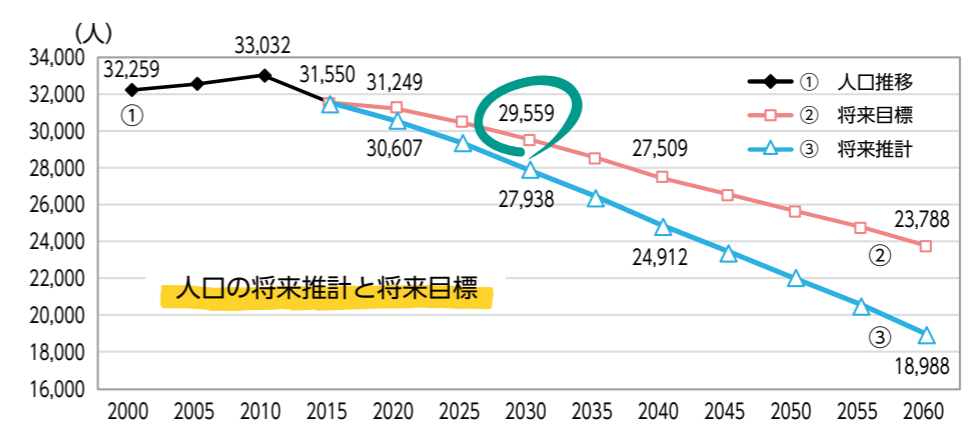
まちの将来像

「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」

美しい自然と由緒ある歴史、文化に恵まれた大磯を愛し、誇りを持つことにより、その価値を高めながら、さらに住みよいまちづくりをめざします。

将来人口

2030年度（令和12年度）に3万人の人口を維持する



計画期間

2021年度（令和3年度）から
2030年度（令和12年度）まで
【10年間】

基本理念

- 郷土の誇りとくらしの親和
- つながりと創生

施策の大綱

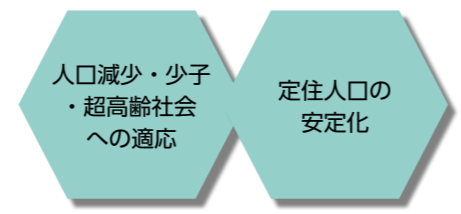
- 柱Ⅰ 安全安心でいきいきとくらすまちづくり
- 柱Ⅱ 町民の力や知恵が集まるまちづくり
- 柱Ⅲ 快適でくらしやすいまちづくり
- 柱Ⅳ 心豊かな人を育むまちづくり
- 柱Ⅴ 元気や活力が生まれるまちづくり

第五次総合計画の策定に向けて
全国的に急速に進行する人口減少や少子高齢化、それに伴う税収の減少や社会保障費の増大による財政の悪化など、地方自治体はますます厳しい状況下に置かれることが予測されます。その一方で、高度情報化、国際化社会への対応、防災・防犯への町民意識の高揚、また、地域コミュニティの希薄化への対応など、町政に求められる役割が多様化してきています。これらの課題に的確に対応し、誰もが豊かで満足できる生活を実現するため、大磯町第五次総合計画を策定しました。

まちづくりの指針となる総合計画
総合計画は、将来を見据え、どのように大磯町を創っていくのかを示す、まちづくりの指針となるものです。めざすべき姿を描いた「基本構想」、基本構想を具体化し実現するための施策の基本的な方向を示す「基本計画」、基本計画を実現するための具体的な事業を示す「実施計画」の三層構造となっています。

令和3年度から令和7年度までの前期基本計画では、3つの重点プロジェクトを掲げ、未来につながる大磯町を創り上げていきます。

前期基本計画でめざす方向性



未来につながる大磯町に向けて

- 「住んでみたい」まち 年少人口割合の向上への取組み
- 「住み働きたい」まち 生産年齢人口の確保への取組み
- 「住み続けたい」まち 社会変化への対応、安全・安心の確保への取組み

重点プロジェクトの目標

あなただけの 大磯らしいライフスタイル

「あなただけの大磯らしいライフスタイル」が意味するものは、「町民一人ひとりが主人公で多様な価値観を持っていて(=あなただけの)」「大磯を舞台として、大磯の環境を生かして(=大磯らしい)」「豊かなくらしを享受する(=ライフスタイル)」ことです。

その答えはひとつではなく、町民一人ひとりが、自分に合った快適な生活を手に入れてほしいという想いを込めています。

重点プロジェクトの取組みを土台として、まちづくりに参画しながら、それぞれが思い描く大磯らしい豊かなくらしを創り上げていきましょう。

前期基本計画 3つの重点プロジェクト

計画書は町ホームページに掲載しています。
(<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/gyosei/sougou/14060.html>)



1 働く人を応援する



官民が連携して、働く世代を町に呼び込み、地域経済の活性化を推進していきます。

2 妊娠・出産・子育て・教育の希望をかなえる



地域が一体となり子どもや子育て世代を支え、次世代へとつないでいきます。

3 住む人の安心なくらしを守る



あらゆる生活の基盤を支え、安全で安心を実感できるくらしを実現していきます。



「中崎町長からのメッセージ」
第五次総合計画は、第一次計画から続くまちの将来像である「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」を引き継いでいます。この変わらない価値観を将来に引き継ぎつつも、常に移り変わる時代や社会の変化に適応していかなければなりません。

近年、社会は大きく変容し、先を見通すことが非常に困難な時代を迎えています。このような不安定な世の中において、大磯町がめざすのは、大磯町に携わる皆さん一人ひとりが、この大磯町を舞台として自分に合った快適な生活として、「あなただけの大磯らしいライフスタイル」を実現している姿です。

これを実現するためには、行政だけの力で成し得ることはできません。町民、行政、事業者が一体となってまちづくりに携わることで実現する「わたしたちが創るまち」です。新たな未来をともし築いていけるよう、皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。